

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

地球温暖化と植物	P 2
本格的な技術協力へ	P 4
●チコロナイ目標達成をめざして	P 6



元宵節 (旧暦の1月15日)、竹馬に乗った劇団のメンバーが街を練り歩く (撮影: 橋本紘二)

GENに参加するには

- ☆会員・会報購読者になる
- ☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する
- ☆ワーキングツアーに参加する
- ☆ビデオ『森よ、よみがえれ!』を見る
- ☆使用済みテレカ・オレカを集めて送る
- ☆KDD グリーンアースダイヤルに登録する etc.

あなたのご参加を待っています!

1998・1

59

地球温暖化と植物

立花 吉茂 (GEN代表・花園大学教授)

地球温暖化防止会議は、会期を1日オーバーしてなんとか議定書の採択にこぎつけました。会議が終わったらそれで終わり、ではもちろんなく、温暖化ガス削減に向けてこれから動き出さなければなりません。今回の議定書では、森林の吸収分を差し引きすることが認められ、抜け道になると問題になっていますが、ほかならぬその森林-植物も、もちろん地球温暖化の影響から自由なわけではありません。いったい、どんな影響があるのでしょうか。

●はじめに

地球温暖化を防ぐためのCO₂排出に関する京都会議は、ともかく終了した。一応の成功といえるかもしれないが、数字合わせに終始した感はぬぐえない。発展途上国の30年後がどうなっているかが予想できないだけに、問題の根は深い。CO₂問題だけでこの始末だから大変だ。地球の温暖化の原因物質はCO₂だけではない。メタンもフロンもからんでいるのだ。

CO₂は植物の働きによってC(炭素)とO₂(酸素)に分けられる。植物のこの働きは光合成と呼ばれる。植物体は固定されたCの固まりである。そして一方のO₂は大気に還元されて空気の組成を一定に保つ。大気中の組成物質は、N(窒素)がもっとも多く、そしてO₂(酸素)とCO₂(二酸化炭素)、メタンなどがおもな成分であり、微量の組成物質は多数ある。ものを燃やすと大気中の酸素を消費する。酸素がないと、ものが燃えないからそのことが理解できよう。最近の人類はものを燃やしすぎる。とくに、化石燃料は何万年以上もかかってたくわえた地球の貯金である。この高いカロリーをもつ化石燃料を燃やしすぎると地球の大気組

成が変化してしまう。大気中のCO₂濃度は化石燃料の使用量と相関している(図1)。

●温室効果

大気中にCO₂が増えるとなぜ地球が温暖になるのか? これは温室効果で説明されている。大気圏の地表に一番近い場所にわれわれ人間が生活している。そこにCO₂ガスが増えると地表に近い部分は熱放射が少なくなる。CO₂は空気よりも熱の放散を妨げる物質だからである。この層があたかも温室のガラスのような働きをしているので温室効果とよばれるようになった。

フロンは地球を取り巻くオゾン層を破壊するので、地球にとって危険な物質であるから、その製造が規制されている。あたらしく作られたその代替物質は熱放散の妨害力がCO₂の数倍も強いと言われており、これまた大問題である。

メタンも地球温暖化に働いている。メタンガスといえば、どぶから出ている気泡を思い浮かべるが、牛のゲップが大きく働いているというから驚きである(図2)。

温室効果は通常の天気でも起こっている。朝から晴天で風がないと、日中

から夕方にかけて温度が上昇する。しかし夜間も晴天無風であると翌朝は強く冷える。これは太陽の照っていない夜間に熱が放射冷却されるからである。この放射冷却を防ぐのが雲であり、夕方か(夜中、厚く、低

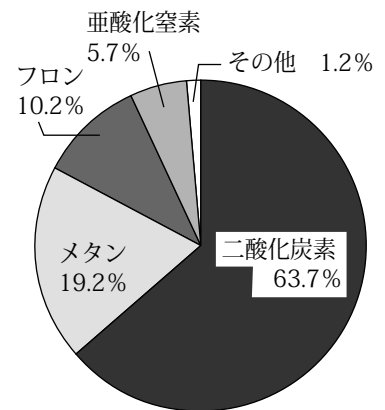


図2 人間の活動にともなう出る温室効果ガス(産業革命から1992年までの寄与度、IPCCの報告書から)

く雲が垂れこむと放射冷却が起らず、昨日の温度が残って翌朝は暖かい。この雲が温室のガラスの役割を果たしているから、これが温室効果である。CO₂はこの場合の雲と同じ働きをしているのである。

●地球温暖化

われわれが酸素を多く消費するとCO₂濃度が上がり、温室効果で気温が上がり、いわゆる温暖化がおこる。温暖化は人間活動だけでなく昔から地球が温暖化している天然現象である、という気象学者もいる(図3)。しかし、実際には天然と人為と両方の作用で温暖化が進んでいるのではなかろうか。また海水の温暖化は部分的に移動して「エルニーニョ」現象が起こっているが、この現象は昔からあったらしい。しかし、いまほど頻繁には起こってはいなかった。最近では2~3年おきに起こっている。

地球が暖かくなると、いろいろなことが起こると予測されている。南極の氷が解けて海水の水位が上がり、低地は水没するとか、寒い地方が暖かくな

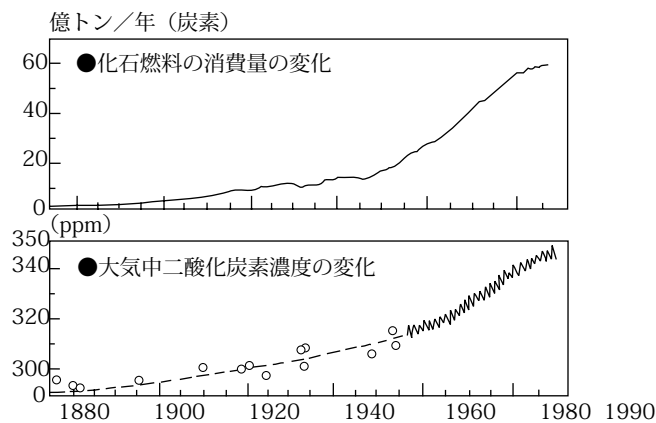


図1 化石燃料消費量とCO₂濃度の増加との関係

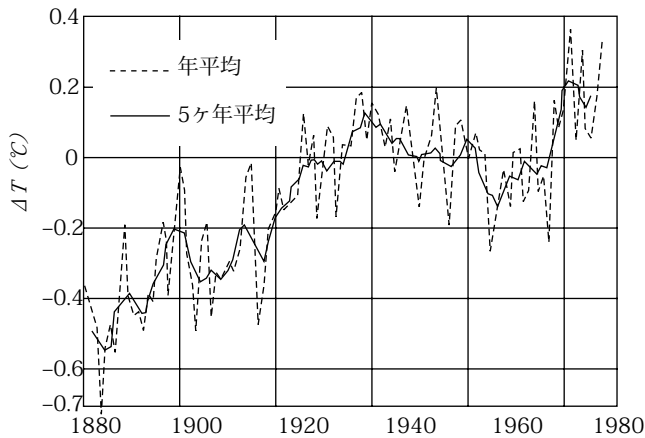


図3 1880年以来的地球気温の変化
実線は5ヶ年平均 (J. Hansen, S. Lebedeff: *Geophys. Res. Letters* 15 (1988) 323より)

って、ツンドラで小麦が栽培できるようになるが、いまの農地はできなくなるとか、いろいろな憶測がなされている。長い間続いてきた環境が変わるといことは決して良い方向へばかり変わることはなく、むしろ悪い方向へ進むのではないだろうか。

●植物の役割

植物はCO₂の濃度が上昇すると、光

合成を盛んにおこなうようになる。ビニール・ハウスの実験では、キュウリの成長がはやくなり収穫が早まったので収入増加になった。そこで、ボンベ入りのCO₂を「炭酸ガス肥料」と呼んだりした。だが、そのキュウリの株は、葉が早く枯れて寿命が短くなってしまったという。

がんらい、植物の葉は生産工場であり、生産した炭水化物を倉庫である根や幹や球根に蓄える。そして、夜間は呼吸のために昼間生産した炭水化物を消費して生活する。生産工場である葉は、一定の働きを終えると、付け根の離層から切り離されて落とされる。CO₂濃度が上がって働きが増加すると、葉が早く落とされてしまうので、せっかく貯めた栄養物を分解して、次の生産工



場である若葉を製造せねばならない。これでは植物そのものの寿命が短くなってしまふ。これは非常に恐ろしいことではないのだろうか。地球上の森林がどんどん減っているが、減った植物がCO₂濃度上昇で一先懸命光合成を盛んにし、早く寿命がきたらどうなるだろう。「何だかヤバイなあ」としか思えないのは私だけのことだろうか。いままですに昔よりも、残された植物の光合成が盛んになってきているのではなからうか。私たちが黄土高原に植えている樹木が早く寿命がきて枯れていくのだろうか。いやそれまでに、温度上昇で水分蒸発が増えて緑化に失敗してしまうのだろうか？ 新年早々いやな予感がしてならないが、だからといって何もしないのはヒトではない。消費をセーブして、われわれの味方である植物をふやそうではないか。

GEN自然と親しむ会

宇治の天然林と人工林をみる

冬枯れの林は、葉を落とした樹の姿を観察するには絶好です。少し寒いけど、暖かくしておいでください。

- 日時：2月15日(日) 10時～13時
- 場所：宇治市立植物公園
- 集合：宇治市立植物公園前に10時
- 交通：京阪宇治線・JR奈良線「宇治」駅、近鉄京都線「大久保」駅からバスあり
- 案内：立花吉茂さん (GEN代表・花園大学教授)
- もちもの：弁当・水筒。植物図鑑があればご持参を。歩きやすい靴と、暖かい服装でご参加ください。
- 参加費：大人＝1,200円 中学生以下＝400円 (植物園入園料・保険料ふくむ)
- 雨天決行
- お問い合わせ・お申し込みは2月12日(木)までにGEN事務所まで。

助成・ご寄付 ありがとうございます

昨年11月28日、国際ソロプチミスト奈良4クラブの会合で、高見事務局長が黄土高原の緑化協力の現状を報告しました。毎年緑化基金をお寄せくださり、今回も寄付金をいただきました。

また、12月には、富士ゼロックス端数倶楽部と富士ゼロックス株式会社からそれぞれ20万円ずつ、合計40万円、(財)イオングループ環境財団から50万円の助成金をいただきました。2団体とも今回で3回目のご協力です。

私たちの緑化活動へのご理解に感謝いたします。円安のなかですが、貴重なご協力を有効に使わせていただきます。ありがとうございました。

使用済みテレカ回収 継続します

NTTが今年2月で使用済みテレカの買い取りをやめると新聞紙上などでご覧になった方もおいでだと思います。

GENでは、引き続き使用済みテレカの回収をおこないます。JRのオレンジカード、高速道路のハイウェイカード、各種プリペイドカードもデザインのきれいなものでしたらOKです。ただし、折れ曲がったもの、汚れのひどいものは換金できないのでご注意ください。みなさんのご協力をお願いいたします。

ホームページが 新しくなりました

すでにご覧いただいた方もおいででしょうが、GENのホームページがリニューアルしました。事務所で悪戦苦闘した結果の名作(迷作)です。要領もなにもわからないままに作りしたので、みなさんのご意見・ご感想をお待ちしております。ホームページは <http://www.mahoroba.or.jp/~tatsumi/gen.html>、また、ご感想のe-mailは gentree@ma.kcom.ne.jp まで。

「これじゃあ情けない、いっちょ手伝ってやるか」という方もぜひ事務所までご連絡ください。

本格的な技術的協力へ

～大同からの報告

年明けそうそうに黄土高原にきて、いくつかの村を回り、あわせて全体の計画を練りなおしています。

昨年、大同は大旱魃でした。どの県も年間降水量が300～350mmしかなく、しかも作物の生育を決定する時期に雨がなかったため、灌漑のできない条件の悪い村ほど事態は深刻です。きのう訪れた渾源県北部の村は、ジャガイモ、アワ、キビが平年の25～40%しか収穫できず、アワを皮ごと、薄いカユにして食べても、半年ももたないといっています。あとは国からの救済食糧を待つしかありません。

どこの川も水量が以前の半分まで減っているようです。気候の変動を死活問題として考えるようになったのでしょう、県から村に雨量計が配られ、観測をはじめています。村の人たちが口ぐちに「地球温暖化」を語るのには驚かされました。

私たちも、主要な造林地に気象観測の体制をつくり、各県の気象台の協力をえて、過去のデータの解析もすすめたいと考えています。

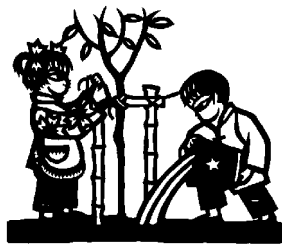
私たちのカウンターパート＝緑色地

球ネットワーク大同事務所は、昨年秋から飛躍的に強化されました。技術部が今年計画地23か所を、少なくとも2回は点検し、春の植樹に備えています。

自然環境と社会的な条件を考慮したうえで、大半のプロジェクトで、複数樹種の混植をすすめることになりました。そのために、地球環境林センターと、新しく建設する霊丘県支所で、有望樹種の見本園をスタートさせ、育苗を開始することにしています。

昨年、顕著な効果のでた菌根菌の活用をはじめ、いくつかの項目は、いよいよ実用化にむけて動きはじめます。

どれをとっても息のながいしごとで、資金調達は頭の痛いことですが、なんとしてもやりとげたいと思っています。みなさんのいっそうのご協力をお願いいたします。(高見邦雄・1月9日記)



速報～大同市の隣 張家口市で地震

1月10日、河北省張家口市付近で地震があり、多数の死傷者、家屋倒壊などの被害がありました。

高見事務局長はそのとき被害の大きかった張北県まで車で2時間の天鎮県にいました。11日夜の電話によれば、大同市では被害はなかったものかなりの揺れを感じ、早速張北県へ車を走らせたそうです。張北県では副県長に会うことができ、被害の状況を聞いて、カンパを渡してきたとのこと。張北県は標高1,600mで、この時期には昼間でも零下10度の寒さです。奇しくも阪神大震災から3年を迎えようとするいま、震災直後を思いだすと、住居を失った方々の苦勞が思われます。

被災地が協力の現地ではないこと、会報編集時点では情報不足のため、掲載は見合わせるつもりでしたが、お問い合わせの電話を何本かいただいたので、とりあえずわかっていることだけお知らせすることにしました。会報がみなさんのお手元に届くころには高見事務局長も帰国していますので、義援金カンパ等のお問い合わせはGEN事務所までお願いいたします。なお、物品カンパについては困難と思われるのでご了承ください。(東川)

1998 春の黄土高原 ワーキングツアー

今回の目玉は農村ホームステイ。まだ確定はしていませんが、両班とも農家に1泊できるように調整中です。

「10日も仕事を休めない」「月末・月初をまたぐとどうも」といままで参加できなかった方、今回の第2班はチャンスです。この機会をお見のがしなきよう！ また、第1班は早く定員に達することが予想されます。ご希望の方はお早めにお申し込みください。

●日程：【第1班】1998年3月26日(木)～4月4日(土)

【第2班】4月16日(木)～23日(木)

●費用(両班共通)：一般=175,000円、学生=165,000円(国際航空運賃、中国

国内での交通費/食費/宿泊費、ビザ取得手数料、GEN年会費含む)

※中国国際航空利用

※関西国際空港発着

※成田空港発着便利用の場合、費用が高くなる場合があります。

※北京もしくは大同で合流ご希望の方、ご相談に応じます。

●定員(各班)：20名

●締め切り：【第1班】2月26日【第2班】3月16日

※ただし両班とも定員に達し次第締め切ります。

緑色地球ネットワーク訪日団 第1回実行委員会のお知らせ

第1回の緑色地球ネットワーク訪日団から2年以上がすぎ、第2回の訪日団を、会

員総会にあわせて来年6月に招くことにしました。今回は実行委員会をつくって歓迎したいと思います。黄土高原ワーキングツアーに参加した方、こんなところを訪ねたらというアイデアのある方、黄土高原で緑化に走り回っている現地のスタッフに接してみたい方、お気軽にご参加ください。時間のある方は時間を、アイデアのある方はアイデアを、お金のある方はお金を。GEN会員・非会員を問いません。あなたのお力をお待ちしています。

【第1回実行委員会】

●日時：1月31日(土) 14時～17時

●場所：大阪市立弁天町市民学習センター(JR環状線「弁天町」駅北出口、地下鉄中央線「弁天町」駅2A出口から直通通路あり。ORC200の7階)

●お問い合わせ：GEN事務所まで。



緑の中国 歴史篇 15

上田 信 (立教大学教授)

戦国時代の末に長江流域で生まれた『楚辞』を読むと、自然と人間との関係を窺い知ることができます。たとえば「山鬼」の冒頭には、次のようになります。

若有人兮山之阿 山のくまに人有るがごとし

被薜荔兮帶女蘿 薜荔をきて女蘿を帯とす

詩の形式を見ると、各句は「○○○兮○○○」という形をとっています。「兮」は『楚辞』や『楚辞』から発達した「賦」と呼ばれる韻文に共通してみられるもので、「アー」と発音したようです。字を分解すると「八」は口を大きく開けた様子を、「ㄎ」は息が勢いよく出る様子をそれぞれ表しています。腹の底から朗々と歌い上げる箇所なのでしょう。実は、この形式に基づく歌が「四面楚歌」の故事に登場する「楚歌」なのです。項羽が自らの死を悟ったときに歌った有名な詩も、この形式によっています。

さて、「山鬼」の冒頭を現代語訳してみましょう。「山の隈に誰やら人がいるらしい。ツルマサキなどの蔓植物を衣として身にまとい、地衣類の植物を帯とする」となります。

「薜荔」はツルマサキやテイカカズラを指していると思われます。ツルマサキは山地の樹林に見られるニシキギ科の常緑の蔓性の植物。日本でも低い山を歩くと、気根を出して立木に絡ませてよじのぼっているツルマサキをしばしば見かけます。葉は濃い緑色でテカテカと光り、立木の幹を艶めかしく彩っています。テイカカズラも同じく常緑の蔓植物。こちらはキョウチクトウ科です。若い葉はツルマサキとよく似ていますが、枝を折ってみると簡単に見分けられます。折口から白い乳液を出したら、テイカカズラ。その花は白く、初夏に巻き付いた樹木の上で一斉に咲いた様子は、なかなか見事です。

山鬼はこうした森林の植物を身にまとった姿で、歌に登場するのです。

GREENなんでも勉強会 第1期『海外調査心得』

顧問をはじめとするGENのブレーンに、植物、環境、中国などお得意のテーマで3回シリーズの講座を開いていただきます。

トップバッターの小川房人先生には、世界各地での植物調査の経験を生かした、実践的なフィールドワークの心得についてお願いしました。

第1期「海外調査心得」(全3回)

●講師：小川房人さん (GEN 顧問、大阪市立大学名誉教授)

●日程：第1回 1月22日 (木)、第2回 2月5日 (木)、第3回 3月5日 (木)

●時間：18時30分～20時30分 (各回とも)

●場所：GEN 事務所 (JR・地下鉄中央線「弁天町」駅徒歩3分)

●参加費：3回通して2,000円 (含資料代) 1回だけの場合は700円

●お問い合わせ・お申し込みはGEN 事務所まで。

MY SCREEN

『ネイティブ・ハート』

2月7日 (土) ～2月26日 (木)

シネ・ヌーヴォー梅田 (TEL. 06-365-0094、阪急東通商店街と新御堂筋北東角から北へ20m、旧シネマヴェルテ)

この映画は、前にあった「ダンス・ウィズ・ウルブズ」にストーリーがよく似ている。滅亡したとされていたネイティブアメリカンのシャイアン族が存在して、伝統文化を引き継ぎひっそり静かに営んでいた生活を、近代文化が攻撃・浸食していくものだが、他にも日本のアイヌ・中国の少数民族など、現実にもそういう危機の状態がある。多数が少数を支配し、近代化・発展・便利の名のもとに「正義」として滅亡させられてしまうのにイキドオリを感じる。(中村欣司・画家)

関東ブランチにはご参加ください!

倉持 幸恵 (大学生)

関西パワーに潰されまいと、関東ブランチが毎月1回の学習会をはじめ、かれこれ4回になります。当初は空中分解するのではないかと一抹の不安をかかえつつ立教大学の門をくぐった人もいたのではないかと思います。(予想に反して?) きちんと続きます。毎回、持ち回りで環境問題などについて調べてきたことを発表し、それに関して参加者が自分の知っていることや疑問、意見などをしゃべりあっています。講演会のように、参加者が確実に「これを学んだ!」といいきれるほどのレベルでは、正直言ってありませんが、違う学校や年代の人が気軽に知り合える場であることも、ブランチの大切な役目ではないでしょうか。

その一環として、12月には学習会のあとに忘年会を開きました。遠田先生、

高見さんをはじめ、遠方からも何人かご参加いただき、さまざまな話題と年代が花咲く会となりました。これからもなにかにつけてイベントを開きたいと思っておりますので、「学習会はちょっと...」という方も、こちらだけでもお越しいただけたらと思います。

この半年、卒業論文の取材という名目で、高見さんからいただいた『世間知らず』の称号を返上しようとは何度か関西へおじゃましました。覚えた言葉は「恥の上塗り」でした。

【関東ブランチ学習会のご案内】

●日時：1月17日 (土) 15時～18時

●場所：立教大学12号館第2会議室

●中村裕「ドイツの循環経済のしくみ～法的対応」

★2月は21日 (土) の予定ですが、内容は未定です。お問い合わせは上田信 (TEL/FAX. 03-3838-1695) まで。

ナショナルトラスト『チコロナイ』 目標達成をめざして

前号の「緑の地球」58(1月号)で、当初2年計画だった第2期計画を今年の12月9日までもう1年間延長することを報告し、募金を再度呼びかけましたところ、11月、12月で65人の方から合計917,79円が届けられました。第1期からの繰越も入れて全部で4,682,680円になりました。ありがとうございました。

目標は700万円です。この1年間でなんとか達成し、第1期で入手した山林と地続きの予定地が購入できるようにしたいものです。多くの方がたの積

極的な参加を呼びかけます。GENの会員で第1期計画の時寄付を寄せられた方、第2期計画の方も継続してよろしく願いいたします。

【連絡先】

武田繁典
〒5469-0003 大阪市東住吉区今6H2-6
TEL/FAX. 06-704-7720
貝澤耕一
〒055-010 北海道沙流郡平取町二風谷 31-3
TEL. 01457-2-2089 FAX. 01457-2-3991
郵便振替 00900-2-5202 チコロナイ

『チコロナイ』 1997年の活動報告

【チコロナイ学習会】

第20回：1月25日(土) 16時～18時

チコロナイに関する新聞やテレビ、書物、現地の情報などを持ち寄って、交換。9年の学習計画を話し合う。

第21回：2月22日(土) 16時～18時

「倉本聰、カナダ・ハイダの森の教え」のビデオ。北海タイムスの記事「楽しく特別授業『松浦武四郎まっぷ』を活用、名寄中学」と同マップを学習。コーディネイターは吉田淳一さん。

第22回：3月22日(土) 16時～18時

前回に続き倉本聰のビデオをみて学習。コーディネイターは吉田淳一さん。

第23回：4月26日(土) 16時～18時

筏井里絵の「見て、聞いて、感じて、考えたこと～卒論「日本人の中に生きる『アイヌネオアンアイヌ』より」

第24回：5月17日(土) 14時30分～17時

有澤浩さん講演会
映画『樹海～天然林を育てる～』
講演『北国の森林～そこに生きる生物たち～』

第25回：6月28日(土) 16時～18時

「二風谷ダム裁判の判決を読む」

アイヌ民族を先住民族と認定した歴史的な判決文の意味、私たちのやらねばならないことなどをともに考えた。

第26回：9月27日(土) 16時～18時

アイヌと日本の昔話の「語り」と絵

本の紹介・佐藤奈美子

第27回：11月1日(土) 14時～17時

貝澤耕一さんの講演と交流会
『自然と共生するアイヌの人々～アイヌの文化に学ぶ～』

第28回：11月22日(土) 14時～17時

中国の留学生、承志さん「中国新疆の錫伯族およびその言語の現状」

【チコロナイアイヌ語講座～いやでも

わかるアイヌ語～】 講師：平石清隆

第2期第3回～6回：1月～4月第4土曜日 14時～16時

第3期第1回～第4回：6月・9月～11月第4土曜日 14時～16時

【その他の主な活動】

1月 「チコロナイ通信」を毎月発行開始。(購読料；郵送料ともで1年間分1,200円)

3月 25～27日 武田、石原 二風谷訪問、二風谷ダム裁判の判決を傍聴。

5月 9～12日 春の二風谷ツアー(8人) 内容 山菜取り、アイヌ料理とチコロナイの森見学

8月 ナショナルトラスト「チコロナイ」現地宿泊研修会

・第2回子供キャンプ(16人) 5日 15時～8日 13時

・第4回二風谷ワーキングツアー(14人) 18日 15時～23日 12時

10月 25～26日 武田、松山「日本

チコロナイアイヌ語講座

～いやでもわかるアイヌ語～
第3期第5回

●日時：1月24日(土) 14時～16時

●場所：GEN事務所

●資料代：第3期(6回)分で2,000円

●問い合わせ：平石清隆(Tel. 0745-23-5627)

★第3期から『エクスプレス・アイヌ語』(中川裕、中本ムツ子著・白水社)をテキストに使っています。1回だけの飛び入りも大歓迎です。(400円)

第29回

チコロナイ学習会

12月の学習会は、前からの予定どおり休みでした。1月はまたいつものようにGEN事務所でおこないます。

●日時：1月24日(土) 16時～18時

●場所：GEN事務所(06-583-1719)

●内容：「二風谷と松浦武四郎」

12年前に萱野茂さん、貝澤正さんらが武四郎について話されている貴重なビデオも見せてもらえるそうです。お楽しみに。

●講師：吉田淳一

●参加費：100円+カンパ

●問い合わせ：武田繁典まで

★初めての人も、1回だけの飛び入りも大歓迎です。

チコロナイ通信のお知らせ

チコロナイ関係の現地宿泊研修会、学習会、アイヌ語講座、講演会などの行事予定、催し物案内、ミニニュース、連載「アイヌ語ひとくちメモ」、「リレー自己紹介&エッセイ」、「最近の新聞から」(アイヌ民族関係の記事一覧)などを載せた「チコロナイ通信」を毎月発行しています。郵送ご希望の方は郵送料ともで1年間分1,200円を80円切手15枚で同封のうえ、武田繁典までお申し込みください。

ナショナルトラスト協会全国大会に参加

11月 松山 二風谷を訪問

貝澤耕一さんのログハウス作りに協力

『二つの風の谷—アイヌコタンでの日々』を読んで

平石 清隆 (チコロナイアイヌ語講座)

1997年はアイヌ文化法が成立し、二風谷ダム裁判判決で「アイヌ民族は北海道の先住民族」との判断がなされるなど、アイヌにとって大きな動きがあった年でした。またこれらのできごとに深くかかわってきたアイヌ初の国会議員・萱野茂参議院議員が任期いっぱいでの政界引退を表明するという、残念なニュースもありました。その萱野氏のアシスタントを長年つとめ、『萱野茂のアイヌ語辞典』の編纂にも従事してきたのが『二つの風の谷』の著者・本田優子氏です。

近年アイヌ民族・アイヌ語・アイヌ文化をとりまく環境は大きく変わり、多くの人びとから注目されるようになってきました。しかしアイヌ文化の本質やアイヌ民族の生活実態、そしてアイヌ語の正確な解釈から見て、その注目のされ方がはたしてどれほど「地に足がついた」ものになっているのでしょうか？ 初めて受けとる情報に心を動かされ、それを検証もせずに受け入れていないのでしょうか？ たとえば「自然と共生する素晴らしいアイヌ民族」、「二風谷はアイヌ民族の『聖地』だ」とか、『『イランカラプテ』というアイヌ語のあいさつは『あなたの心にそっとふれさせていただきます』という意味だ。何と素晴らしい感性だろう！』とよく耳にしますが、これらの発言が十分に吟味された上でなされているのか（それも自らの学習成果に裏付けられた吟味であるべき）、正直にいうと首をかしげざるをえないことも私にはあります。このような感想をもってこられた方に一いや、そうでない方になおさら一読んでいただきたい本です。

本田氏ははじめ「萱野さんちの居候」として二風谷に入り、1983年の二風谷アイヌ語塾開設に偶然関わることになります。開塾まもなく萱野塾長の入院のため、自分もまだあまり知らないアイヌ語を子どもたちに教えることとなり、やがてアイヌ語塾の子どもたちを

「たまらなく愛しく思っている自分に気がつい」て同地への永住を決意。本書ではそのなかで著者が体験し考えた、実にさまざまなことが語られています。もちろんアイヌ文化について、地元ならではの話も聞くことができますが、子どもたちにアイヌ語を教えた経験、舞踊の掘り起こしの苦労話、フチ（おばあさん）たちからの教え。そしてアイヌ語塾（後の平取町二風谷アイヌ語教室子どもの部）の生徒・卒業生たちが、アイヌはアイヌとして、シサム（和人）はシサムとして、どんな思いを抱き、どう成長していったかにわれわれは胸をうたれ、本田氏のご苦労には頭が下がる思いです。また、二風谷の若者たちが「アイヌ文化」を受け継ぐとはどういうことであるかに関する著者の見解（第V章参照）は非常に重要であるし、私をふくむGEN・チコロナイ関係者のように、さまざまな人びととの交流をさせてもらっている者としては、第三章「外からの視線」をぜひ熟読しておきたいところです。

『二つの風の谷』を書店でみつけて買ったのが昨年11月22日、それに先立つ8月20日、二風谷でのチブサンケの日に私はアイヌ語ペンクラブ会長・萱野志朗氏から同クラブ入会のお誘いを受け、アイヌ語新聞『アイヌタイムズ』第3・4号にアイヌ語で文章を書かせていただきました。『二つの風の

谷』を読み、『アイヌタイムズ』に関わるとき私は、われわれ和人がアイヌ文化やアイヌ語を学習するということにどういう意味があるのか、その際われわれがよって立つべき立場とはどんなものか、と深く考えさせられます。実際、『アイヌタイムズ』の和人執筆者の「立場」に注目していきたい、という主旨のご感想をある方からいただいています。和人による北海道侵略が清算されていないなかでわれわれがアイヌ語に関わったりアイヌ民族と「交流」させてもらう時、無邪気に「アイヌ文化にあこがれています」と発言してみたり、「アイヌ語は素晴らしい」という風に喜んでばかりでいいのか、そういう発言がアイヌ民族側にはどう聞こえるのか、と考えてしまいます。逆にかつての侵略の歴史にふれる際に、「和人であることが恥ずかしい」のような、自らの生存の根拠すら否定しかねない発言も聞くことがあります。しかし自らの同胞（あるいは先祖）がやらした罪を反省するということと、自らの文化・アイデンティティーを否定することが同じであってはなりません。和人には和人という立場しかないのだから、その立場で何が可能で何をすべきかを考えていきたいと私は考えます。みなさんはいかがでしょう？

われわれが見いだすべき立場、それはまた本田氏が『二つの風の谷』で自らに問いかけ、見いだそうとしている立場でもあると思うのです。

※『二つの風の谷—アイヌコタンでの日々』（本田優子著、ちくまプリマーブックス=筑摩書房、1,100円）

第3回 森林と市民を結ぶ全国の集い

- 日時：1998年2月21日（土）13時30分開会・22日（日）13時閉会
 - 場所：大阪YMCA 会館（地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅、御堂筋線「淀屋橋」駅）
 - 主催：第3回「森林と市民を結ぶ全国の集い」実行委/（社）国土緑化推進機構
 - 基調講演「市民参加の森林づくり」と合意形成（東京農工大学教授木平勇吉氏）
 - 分科会①都市の中の森づくり②国際的な森林保全③里山雑木林の森づくり④これからの森林・林業⑤水源の森づくり⑥子どもたちの森林体験⑦市民参加の森づくり入門⑧木の文化を見直す—国産材の利用促進⑨新しい森林政策を求めて
 - 参加費：一般=3,000円、学生=2,000円
 - 要申し込み・詳しい内容は「森林と市民を結ぶ全国の集い」事務局まで。
- 〒540 大阪市中央区大手前1-6-4 はなビル6F（財）大阪みどりのトラスト協会内
TEL. 06-949-2110 FAX. 06-949-2133（山根・村上）

※第2分科会で高見事務局長による黄土高原緑化協力の事例発表があります。



橋本紘二写真展

クリヤーの山

タイ山岳少数民族ラフ族の暮し

日本とアジアの農村を撮りつづけ、GENのメンバーには絵ハガキ『中国・黄土高原の四季』でおなじみの写真家・橋本紘二さんの写真展が開かれます。今回は、橋本さんが長く取り組んでこられたタイの山岳少数民族の暮らしを撮った作品を展示。「写真には撮る側の人間性も写る」と納得させられる力作を、ぜひご覧ください。

●日時：1月27日(火)～2月4日(水)

10時30分～20時(最終日15時まで)

●場所：コニカプラザ西ギャラリー
(新宿3-26-1新宿高野ビル4F、TEL. 03-3225-5001、JR「新宿」駅東口すぐ、他各線「新宿」駅徒歩2分)

●無休、入場無料

★大阪では6月11日～17日に開催。5月号で詳細をお知らせします。

好評！ 奄美の黒糖焼酎

関東 brunch の忘年会で好評でした。あっさりとした飲みやすいお酒です。

●“氣” 25% 720ml 1,152円

●“氣” 20% 720ml 1,105円

●“八千代” 25% 1800ml 1,719円

※その他いろいろあります。お問い合わせはGEN事務所か竹中さんまで。

★消費税・送料別。

★申込み：竹中隆 (〒547 大阪市平

野区瓜破1-2-15-405TEL./FAX. 06-709-9004)

★売り上げの一部がGENへの寄付になります。

オレンジキャンペーン

—仮設住宅にみかんを—

いまだ仮設住宅に暮らす阪神大震災に被災された方に、水俣で漁業をあきらめざるをえなかった方たちが無農薬栽培をめざして作ったみかんをおくろうというキャンペーンです。水俣みかん共同出荷組合の協力で実施されます。

●カンパ 一口 1,000円から

●郵便振替口座名義「ブキメラの空」
口座番号 01170-5-64096月末まで

●連絡先 伊東容子 (TEL./FAX. 078-928-7287)